

「みえ高校生県議会」 今後の対応等に関する答弁の概要

サミットを契機とした地域の総合力向上調査特別委員会

学校名	質問項目等	答弁した委員長	今後の対応等に関する答弁の概要	関係する委員会
暁高校	○「伊勢志摩サミット」後のグローバル化について 県は、国際化についてどのようなことを推進していくのか。 また、サミット効果が見込めなくなった場合の政策はどのようなものを考えているのか。	中嶋委員長 (サミットを契機とした地域の総合力向上調査)	・御提案にあったようなSNSや、例えばトリップアドバイザーなどのスマホアプリ、外国のマスコミ関係者を対象としたプレスツアーなどを活用して、伊勢志摩、三重県の魅力を発信し続け、海外から観光客や国際会議を呼び込み、観光産業の稼ぐ力を引き出し、強化する取組を進めていけるよう県の担当部局へ働きかけていく。 また、ジュニアサミットをはじめ、三重県の若者や子どもたちが世界との交流や理解を深める機会を得ることができたが、これを一過性に終わらせることなく、高校生サミット定期開催など、公立私立関係なく、グローバル社会で活躍できる次世代の育成にも引き続き力を入れていくべきだと考える。 サミットのレガシーを十分に生かし、三重県が国際的にもその存在感を高めていく取組をさらに加速化させていきたいと思う。 ・三重県にとっては、ポストサミットこそが地域の総合力が試される真の機会となる。それは与えられるものではなく、私たちが皆でつくり上げていくものである。こうした観点から、今後とも特別委員会で議論を深めていきたいと考えている。	戦略企画雇用経済 教育警察 サミットを契機とした地域の総合力向上調査
	ラグビーワールドカップ、東京オリンピックに三重県はどのようにかかわっていくのか。	中嶋委員長 (サミットを契機とした地域の総合力向上調査)	・今回つくられたネットワークを生かして、事前キャンプというふうな形の取組を一步進めた形で他県に負けないように取り組んでいく、そんなことをこれから委員会としても提案していきたいと思っている。	総務地域連携 サミットを契機とした地域の総合力向上調査